

2024年3月3日（日）第二礼拝「カレブの信仰」ヨシュア記 14章 6-15節

カレブは、モーセの死んだ後の世代をヨシュアと共に導いた人です。彼は約束の地に対する完全な信仰を見せた信仰の人でした。

第一番目、カレブはケナズ人です。ケナズ人はエサウの子孫で、ユダヤ人ではありません。戦争で捕虜となってエジプトに住みつき、そこで信仰を持ちユダヤに帰化した人々です。ケナズ人を含め、多くの入り混じって来た外国人はイスラエルの民と共に出エジプトしました（出エジプト 12：38）。カレブはモーセを通して「あなたがたは乳と蜜の流れる地に入る」という神様の約束を聞いて信じました。そして、エジプトでの神様の十の御業や紅海がせきをなして立ったこと、雲の柱、火の柱、マナ、うずらなど、様々な神様の奇跡を体験し、その信仰は成長していきました。カデシュ・バルネアでは偵察者の一人に選ばれ、ヘブロンという約束の地に遣わされます。その時、信仰の目で偵察して、「神様がこの地を与えてくださる」と確信し、心の中にある通りをモーセに報告しました。そんなカレブは信仰のゆえに約束の地に入ることが許されました。私たちがまた十字架の恵みにより、それを信じる信仰によって救われ天国（約束の地）に入ることできるのです。また、神様の関心は不信仰な十人ではなく、信仰のある二人に向けられました。「ただし、わたしのしもべカレブは、ほかの者と違った心を持っていて、わたしに従い通したので、わたしは彼が行って来た地に彼を導き入れる。彼の子孫はその地を所有するようになる。」（民数記 14：24）これが神様の約束です。神様はこのような信仰者を探しておられます。

第二番目、カレブの信仰の根拠は御言葉にありました。主はモーセを通してカレブに「あなたの足が踏み行く地は、必ず永久に、あなたとあなたの子孫の相続地となる。…（ヨシュア 14：9）」と約束されました。八十五歳になったカレブは四十歳の頃と変わらず壮健であり、主が与えると約束された山地（そこには背の高いアナク人が住んでおり、城壁のある大きな町々があった）を求めました。このように、ビジョンを持ち続ける時に、神様が三拍子の祝福（たましいに幸いを得、すべての点でも幸いを得、健康であること）を私たちに与えてくださり、ビジョンを成し遂げさせてくださいます。

第三番目、カレブの信仰には報いがありました。「その地に戦争がやんだ」（ヨシュア 14：15）信仰の戦いが終わり、安息が来ました。カレブはヘブロンを神様に捧げ、そこが「のがれの町」となりました。これは今の教会をあらわします。私たちが生まれてきた理由、それはまさにこの地に天の御国を建設し、多くの人々を主に立ち返らせ、天国の市民にすることなのです。また、ヘブロンは全イスラエルを支配する王権が確立された場所です。これはカレブが神様に従い通したことの報いです。このように、神様のビジョンを最後まで持ち続け、信仰の戦いを戦い抜くことが大切なのです。「私は勇敢に戦い、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました。今からは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。」（Ⅱテモテ 4：7～8）アーメン！